えぐぞがみ
成人指定
FOR ADULT ONLY

えぐぞがみ2
YAMADA AIR BASE
YAMADA AIR BASE
ADULT ONLY
R♥18

えぐぞがみ
AIR BASE
AIR BASE
浄土
ADULT ONLY
R18

藍！ちょっと
藍〜！
パサ…
はいはい何でしょうか紫さ……
ま……
――それが、出逢いだったと思う。

ちょ……！あの……
なんですかこの人間は……！
あ～……
ちょっと向こうの人間が必要になっちゃったから適当にその辺歩いていたの引っ張ってきたのよ
うぉあぁ
えっ？
そのうち必要になるからそれまで生かしておいて
頼んだわよ～
ちょっ!?
え
あっ……
……
………
くるくる
――紫様のことだなにか御思召があってのことだろう……
しかしはたして紫様はこの人間に訳を話したのだろうか……
――……いや、この人間は何も知るまいわけもわからずただ此処に……

――仕方ない……
――私の名前は藍
八雲藍だ。
――名前は……
暫くの間だが
よろしくな、人間。
……!
……――

……名前
なんだったかな……

えぐぞがみ

ふむ……
もうすっかり終わっていたか……
あぁ、それで最後かい？
おつかれさま
となると……

まだ日も高いというのに
掃除も洗濯も
すっかり
終わってしまった……
トテ
トテ
風呂場は……
すでに洗ってある
厠も……
掃除してある
夕食には……
まだまだ早い
ガラッ
……何も
やることが
なくなってしまった
すっ
ぽふ
え～い！

……
あの子……がんばるなぁ……
――ん？ ただ穀潰しでは悪いから 何かやることは無いかって…？ そうだなぁ……
――あぁ、良いところに ちょっとそれ持って…… あぁ、助かるよ
――もう終わったって？ それじゃあ…… え？それもかい？ そうか、おつかれさま
お茶にでもしようか

ふふっ
……!
コロ
久しいな……
こういうの……
……でもなぁ……
……

ああ、おはよう
昨日はよく眠れたかい？
大体終わってるから
そこにある三つ葉切って入れておいてくれるか？

今日は橙が泊まっているから少しは手をかけなきゃね
昨日はまぁはしゃいじゃって
まだお兄さんと遊ぶ！まだ寝ない！って言って聞かないで大分夜更かししちゃってなぁ
夜更かしなんていつもしないもんだから
遊びつかれてそのまま寝ちゃうんだもの
トン
トン
トン
よっぽど橙に気に入られちゃったんだな
なんだか私も嬉しいよ
にへ
サッ
ちょっと！大丈夫かい⁉

まったく
君はたまにどんくさい
というか……
ザパッ
こういうのは
早く冷やしたほうが
良いんだからな
ほら、こっち来て
ほんと変に抜けている
ときがあるよなぁ……
ぎゅっ
良いから早く
手を出しなさい
……

スッ
…んっ
ピクッ
………
……どうした？
……
ちょっ……——
ぐいっ
あ……

――ッ……！
………
……ちょ
ちょっと待ってくれ……
あせっ
……
……
……なぁ

――で？
まだかかるの？
ゆっ……
ゆか……
紫様……！
あ…
も…もう少しでできますので……
……そう
ドキ
ドキ
あ…そうだな
皿取ってきて
もらえるか？
……ほんと
困った人ですね……
はぁ――――……
ドッ
ドッ
ドッ
……
まったく
困ったもんだな
きゅ…

ん？
？
どうした？
甘いにおいにでも誘われたか？
今朝少し
紫様から聞いてな……
どうも今日は
「ちょこれいと」という
菓子を渡す日らしい
紫様がどういった意図で
話されたかは解らんが
はいそうですか、とは
いかないだろう？
カチャ
カチャ
なぁに
菓子を作るのは
好きな方だしな……
あはは
まぁ、甘くて茶色くて
とろけるとしか聞いてないから
これが正しい「ちょこれいと」
なのかはわからんが……

ん？
「ちょこれいと」は狐の体には毒かもしれないと？
たわけ
私をその辺の畜生と一緒にするなよ その程度の毒も一緒に喰ろうてくれるわ！
フフーン
ほれ、お前も少し手を貸してくれんか？
よし……
ふむ……なかなかじゃないか？
ニッキが効いてる
寒天で寄せたのは正解だったな
ほれ、お前も少し味を見てくれないか？
どうだ？ん？フフ…良かった
お前にはそれでいいか？
フフ、冗談だ少し待ってな……
ほれ
ひょい

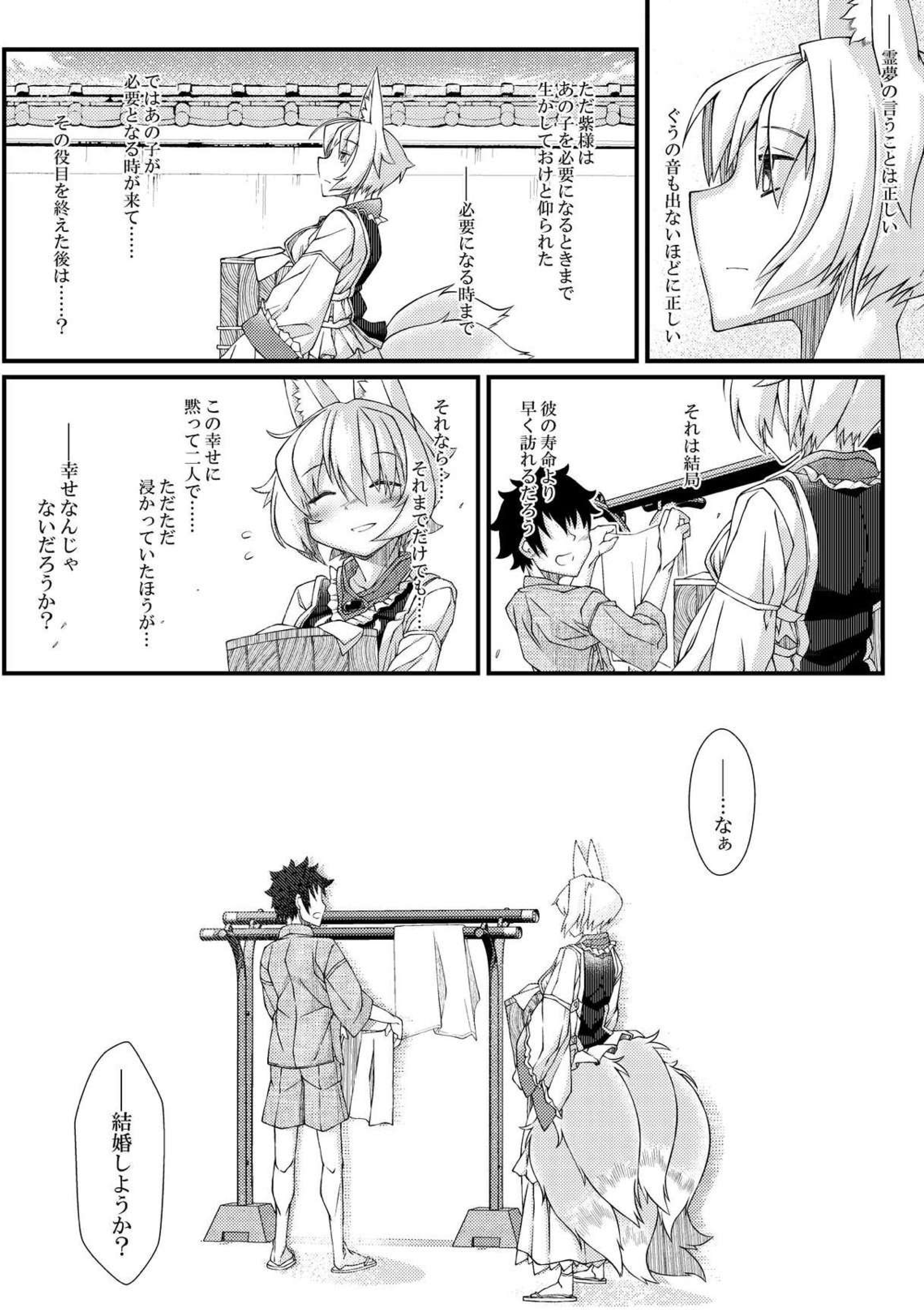
ん？
ああ、知っているさ
今日は好意を抱く男性に「ちょこれいと」を贈る日……
……なんだろう？
……それなら
別に
いいじゃないか

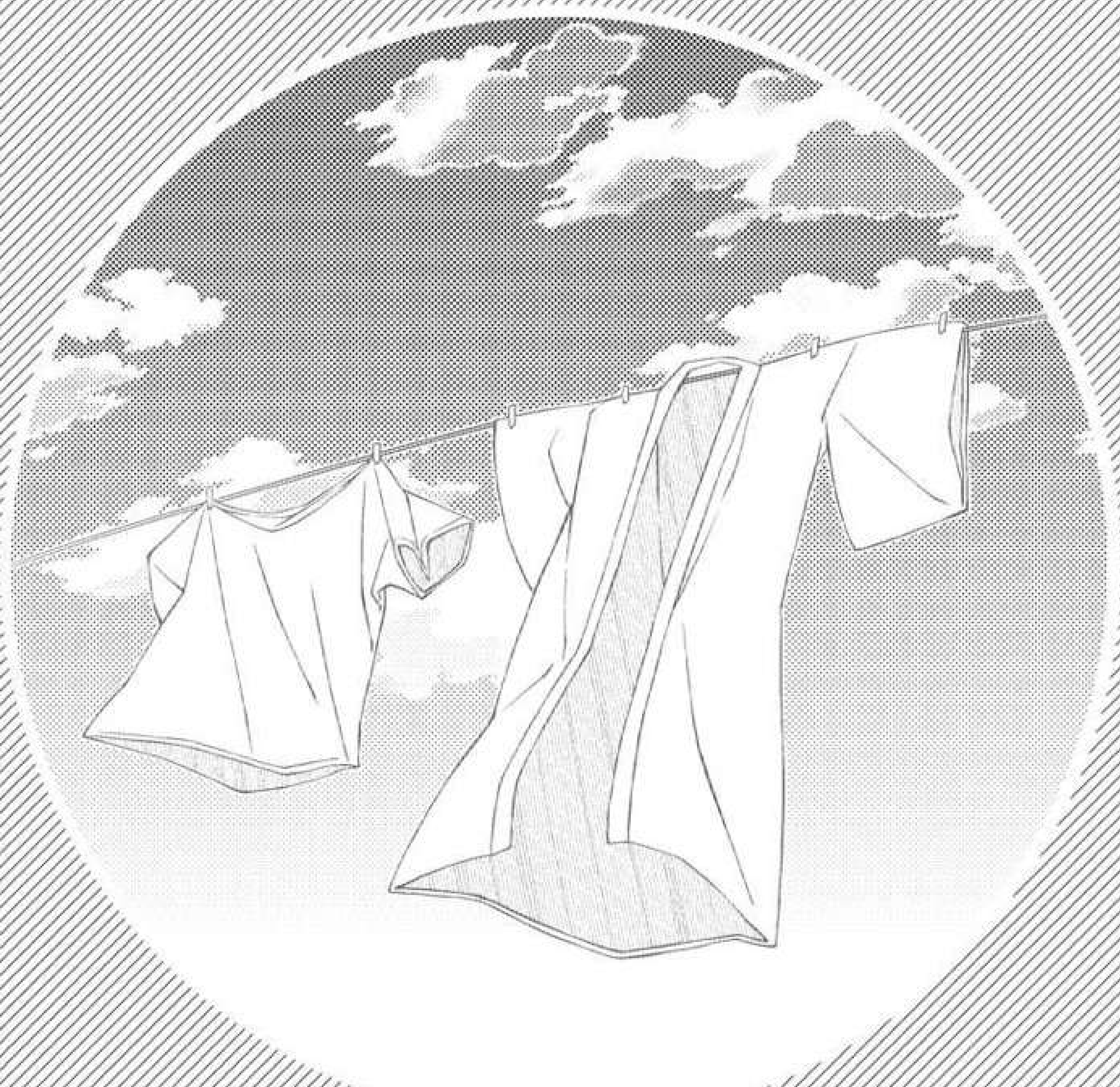
……ヨウカンじゃない？
コレ。

パタパタ
パタパタ
ふふ……
なにニヤけてんのよ
ビクッ
びっくりしたぁ…
何の用？
だら
だら
アンタ……気づいてなかったの
ちゃんと言ったわよ？

ちょっと紫に呼ばれたのよ
なんでもいつだかの先代の作った結界に隙間があってね
なーんか今年は忙しいみたいなんだわ
ところで……
何? アンタ恋でもしてんの?
……っ
カァッ
……はっ!
ドキ
ドキ
ち 違うわよ…
わかりやす…

…霊夢は恋とかした事あるの？
え、図星？ってことはアレ？
アンタセンス無いわねぇ
うるさいなぁ！
——まぁ冗談はおいといて
人間の私から言わせてもらえば大妖怪様が何の気まぐれか遊びか知らないけれど
適当な気持ちで手を出さない欲しいわね
アンタもわかってると思うけど
一緒に並んで歩んで行けるワケないじゃない
私だってアンタにとっては何代目かの博麗なんでしょうが


――霊夢の言うことは正しい
ぐうの音も出ないほどに正しい
ただ紫様は
あの子を必要になるときまで
生かしておけと仰られた
――必要になる時まで
ではあの子が
必要となる時が来て……
その役目を終えた後は……？
それは結局
彼の寿命より
早く訪れるだろう
それなら……
それまでだけでも……
この幸せに
黙って二人で……
ただただ
浸かっていたほうが…
――幸せなんじゃ
ないだろうか？
――…なぁ
――結婚しようか？



八雲邸　早朝
おはよう
気分はどうだい？よく眠れたか？
チャプ…
まだ昨日の宴会の酒が残っているんじゃないか？
弱いのによくまぁ最後まで呑んだものだよ
さっぱりしたところで悪いが納屋へ行って二つ三つぬか底をさらってくれないか？
お前の好きなものでいいぞ
私は先に行って準備しているからな

ああ、すまんな
大体できているから
もう切っておいていいぞ
コト
コト…
ザパッ
ザパッ
カブと…胡瓜か
しかしいつの胡瓜だ？
最近漬けた記憶はないが…
糠はしっかり
混ぜておいてくれたか？
ん、そうかそうか……
次は大根でも入れようか？
ああ、茄子もいいな！
味噌も少なくなってきたし
今度買いに行こうか

どれ
あ――……
ん……
ふんふん……
やっぱり少し漬かりすぎているかもなぁ……でもまぁ大丈夫か…
ぼりぼり
あ～
ところで…
さっきから何を照れているんだ……？何もそんなに気にする仲でもないだろうに
ドキドキ
それとも何か？そう思っているのは私だけか？だとしたら少し寂しいじゃないか？
台所で肩を並べて朝食を作って……
夫婦なら普通のことじゃないのか？ええ？
むにゅ

おはよう
おはようございます紫様
もうすぐご用意できますので……
ああ、そうだな橙も起こして来てくれ頼むよ
……いいか
これで最後にするが……
アレは結界の隙間を埋めるために向こうの人間の標本として引き抜いてきた特異な存在だ
役目が終わったらここにも、そして幻想郷にも置いてはおけない
本来ならこの幻想郷に
向こうの人間が存在すること自体私にとって禍根なんだ
……
……わかってますよ
………
……ならいい

カリ
カリ…
ガラララッ
あら、まだお勤めか？昨日も遅かったというのに…熱心な人だよ、まったく……
あまり根を詰めると身体を壊すぞ…？もう今日は床についてもいいんじゃないか？なぁ……？
…………

もう！本当につれない人だなぁ！君は！
ビシッ
紳士なのはいいがあまりにも奥手なのはどうかと思うぞ！
恥を忍んでこんな恰好で押掛けている私の身にもなってくれ……
パサッ
お前のいとしの奥様は……
朝からず――っとおあずけを喰わされているのだぞ……♥
ドキ
ドキ
なぁ…据え膳は喰わぬか…？
はあっ…
……ん♥

んっ♡
くちゅ♡
んぅ♡
ちゅっ…♡
ちゅぷ…
はぁ
あっ…
……
……ふふ♥
不安になって損したよ……♥
窮屈そうなここを見たらしっかり乗り気じゃないか……♥
するる…
君もこれくらい少し素直になった方がいいぞ…♥

まぁこんなものまで
用意している私は
君のことを見習った方が
いいのかもしれんが
あははは
これか？
これは通和散と言ってな……
竹林の薬売りに
貰ったんだ
カサカサ
すこし……
まっふぇくれな……
くちゅ…
にちにちゅ
んぇ……♥
ほ――――ら♥
ぬらぬら～～～♥

もうすっかり準備万端だな♥
にちゅ
にちゅ
そんなに蕩けて……ふふ……♥すごくかわいい顔をしているぞ♥
のしっ
ユサ
ユサ
んっ……♥
こんなにも火照って……張って……当てているだけで果ててしまいそうじゃないか……♥
ほら……いくぞ……♥
クチュ…
ヌチュ…
はっ
はっ

ズブ…
ズプ…
えっ…？
あらっ…？あらら…？
本当にもう果ててしまったのか…？
ビュルルッ
ビュルルル
ビク
ビクッ
もう……♥
少しは我慢できなかったのかぁ？
ハッ
ハッ
ズイッ
ん……？
ピクッ

ふぁ…
んぅ……らんさま～？
まだ起きてるの～……？
おや、どうした橙？
目が覚めちゃったのかい？
うん……おしっこ……
あーお兄さんも
起きてるの～？
橙も起きてようかな～……
な～に言ってるの
早く済ませてもう寝なさい
大丈夫、尻尾で隠れて
見えちゃいないさ
コク
コク

らんさま～一緒にいこ～
何言ってるの
一人で行けるでしょ？
うん……
し――――っ……♥
声を出すなよ…ばれてしまうぞ…♥
スス…
おやすみ
らんさま～……
はいはい、おやすみ～
寝る前に
ちゃんと厠へ行くんだよ～

……
ふふ……
行ったな……♥
パタン…
ドキ
ドキ
橙に見られて
興奮したのか？
またすっかり
硬くなっているじゃないか……♥
グチュ
ヌチュ
ドキ
ドキ
続き……しようか♥

あっ
はっ
ふっっ
タン
タン
タン
んっ
はぁっ
パン
パン
フッ
んっ
ドスン
まだ…私はっ……♥
イケて……
ないんだからな…っ!
我慢…しろよ…♥
ドスン
はぁっ
ユサッ
ユサッ

んっ
もう少しで……♥
私も……っ
イけっ♥
はいっ
パチュ
パチュ
ドチュ
むにゅ♥
ぎゅううっ…♥
……は
……んっ……
まだ……いけるよな…？

次は……君が……上……♥
ドキドキ
ドキドキ
あっ
来て……♥
ドッドッ
私の旦那様……♥
ドッドッ

ふふ……
襲われちゃうなぁ～……♥
ドキ ドキ
ああっ……♥
いいっ……♥
いいわよ…♥
もっと…来てぇっ……♥

ちゅぽっ
ちゅぽっ
好きよ…♥
大好き……♥
もっと顔…見せて……♥
ちゅぽっ
んっ
ぱんっ
ぱんっ
んむっ
ぱんっ
んふっ
んっ
ちゅく
ちゅっ

ぬちっ
んっ♥
ぬちっ
はっ♥
ぎゅ♥
あっ♥
いきそう……？
パチュ
はっ♥
パチュ
あん♥
パチュ
パチュ
……いいよ……♥
私の中……っ
いっぱい満たして……♥

ふふっ……♥
愛してるぞ……♥
んあっ
ビクン

トク トク トク
お——っと
っと…
ん——っ
ありがと～～～♡
んふ～～～～♡
ぽわ～
下戸な君が あんまり呑むとぉ～
いいお酒にしつれいだからぁ…
かわりにぃ～
わたしが飲んであげような～～♡
ぎゅっ
？
酔ってなぁーいっ!!

んー…酔ってないといえば…
まぁ…嘘になるが……
君といると…どうもなー……
気が抜けてしまってなぁ…？
はは……
……
なぁ……
君は……私のことどう思ってる…？
――！
うん…だよな…
知ってるさ……
知ってるけども…ん――……
……

あー……
すまん、悪いクセだ
気にしないでくれ……
やはり大分酔っている
みたいだなぁ……
あはは……
──…っ！

……
……あ……
……うん
……へ
ふふっ♡
私も好きだぞ――♡

あんまり記憶ないんだけど
私昨日なんか変な事
言ってた？

えぇ……？私の気持ちいいところを教えてほしいって……？
何をいきなり……
は――……
なんだか毎回自分ばかり満足してるみたいで申し訳ないと……
だから今日は私をもっと満足させたいと……
ゴク
ゴク
う――……
えぐぞがみ
exogamy
特別編

う―――……
見えるか……？
改めてまじまじと
見られると相当に
恥ずかしいな……
そう……そこの…
なんだ…上のほう…………
そう…陰…核……
左右に………
やさしく……な…？
くぱぁっ…
ゾクッ
ゾクッ

指も……
中まで……入れて…？
ん…♥
ドキ
ドキ
むに…
そう……
もっと体も……
いろんなところ……
さわって……♥
ちゅく…
はっ…
いいぞ……っ
あんっ
はっ
はっ
ぬぽ…
ぬぷ…
あっ
はー
はー
んんっ

んんーーっ♥
ヌチュ…
ヌチュ…
ヌリュ…
ピク
ピクピク
はっ…
んっうーーっ♥
ウズ…
ス…
ぎゅっ…
ひぇ？
あ゛あ゛ぁぁあ♥
ゾク
ゾク
まっ…ひぃ
ひぁあああ♥
ヌポ
ヌポ
ヌポッ
ゾク
ひっ♥
ガク
ガク
ふ゛う゛う゛ぅ゛♥

ん゛ん゛んん～♥
ガッ
ガッ
やめなさッ!
バカアっ
ちょっ!?
びちゃあ…
ス…

お～
ありがとう～
カラ
いやぁ本当この暑さには参るな
盆過ぎまではこの調子だろうか
そういえば今年の祭りは盛大にやるらしいぞ
それで紫様は今日は神社へ行って帰ってこないって

──しかし それにしても 暑いなぁ……
パタ
パタ
こうも暑いと 自分の尻尾ではあるが やはり恨めしいよ
むわ…
ムラ…
……
……ちょっと
ぐいっ
ぐいっ
カラ…
んっ……
ス…

……ふふ
まったく……夜まで我慢できないのか?
っ……!
藍、貴女……冬は良いけど夏は本当に暑苦しいわよね
……それになんだか
やっぱり蒸れるのかしら
アナタ、臭いわよ
ちょっ!
ちょっと待ってくれ。
湯浴み……させて……
汗臭い……から……
きゅ。。。
ドキーーー

ちょっ!? ちょっとぉ!!
ガババッ
……う……
ふぇ……
あぁ……あ……

あ゛ぁあ゛ぁあ゛ぁ…
れろ…
ちょっ…！
待って……ッ
ぴくっ
ちゅ…
あっ…♥
くちゅ…
んんっ…♥
ぴくんっ
くんくん…
嗅ぐなぁ…っ！
バカぁっ
ああっ！
もぉっ!!

うー……
きみ、意外と
そういうところ
あるよなぁ……
――え？
もう……
調子のいいこと
ばかり言って……
するり
しょうがないなぁ…
なら思う存分
嗅ぎなさいな……
むあああ。。。。
ほら……
おいで……♥

まったく…
呆れたものだよ…
ハァ
ハァ
ハァ
ぬぎっ
ぬぎっ
はあっ…
もう…
がっつきすぎ……
なにがそんなに
良いのやら……
んっ
なでっ
ふぅぅぅっ
むにー
ちゅ…
ちゅぷ…
ピクンッ
んあはっ

んうっ♥
ビクッ
ビクン
……
もぉ～……
ヌル…
……ふふっ
いいよ……♥
きゅっ
あっ…あんっ
ゾクッ
はぁあああぁ～♥
ゾクッ

あっ いきなりっ
ユサ
あんっ
激しっ
あぁっ
ユサッ
ヌパッ
ヌパッ
ヌパン
君もっ…
ヌクッ
んあっ
はっ
ヌクュ…
あつくて…っ 溶けそ…っ
ヌポッ…

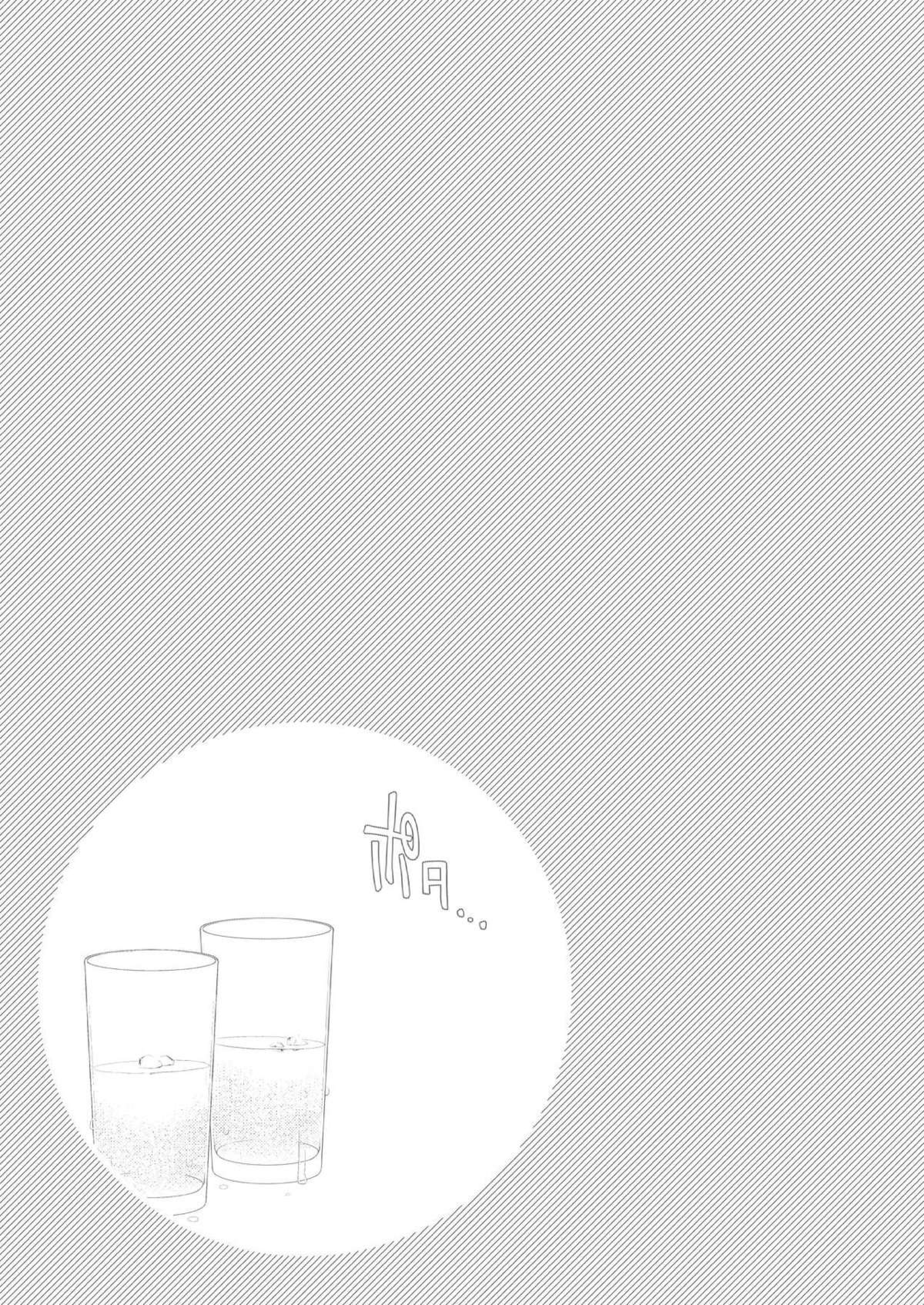
はっ
ヌプッ…
パヂュ…
はっ…
んっ…
パヂュ…
ヌチュ…
ぷあっ…
パチュ…
はぁっ…
はっ…
あっ…
ズグ
ズグ
はぁあっ
すきぃ……
ズグッ
はぁあぁあっ…
あぁっ
んんっ
ぎゅうぅーーっ
はぁっ…
はっ…
はっ…
あぁっ
ヌラ
はぁぁぁ……
はぁ……
ふぅー…
しるっ
変えるの…？

ヌププ…
はぁっ…んんぅ…♥
ヌチョ…
はぁっ♥
パチュ…
パチュ…
ゾク
はぁっ♥
ヌプッ
はぁっ…じんあっ♥
ぎゅ…
ちょっ…♥
ヌプッ
ヌプッ
ヌチュ
ちょっと…ッ
すっ
くにくにっ
そこはダメっ…♥
ちょっといいかげん
ニイっ…♥
ヌチュッ
ズチュ
あぁっ♥
グチュッ
じゅうっ♥
ヌリュ
ズリュッ
ゾク
んんく〜♥

お゛ぁ゛あ゛♥
だ゛めッ だ゛めぇ
イ゛ッ…い゛
あ゛♥あ゛ぁ゛あ゛ぁ゛ッ♥
ビュルッ♥

ッ……!
ビクンッ
あ…
はぁっ……
はっ… あ…!
ビクッ
はぁっ……!
ビクッ
ビクッ
つぽ
……んっ
……ふぅ……
……ん?
くてぇ～…
もう……
調子に乗るから……
ふらぁ
……

――。
――。
――。
?
むくり
ふふっ……♥
呼んだだけ



ふふー ふふ〜ん
ふーん♪
ふんふふー
ふふー ふ〜ん
ぱたん
……
ぱた
ぱた
ずばっ
え〜い♥

さわ
さわっ
えへへ…♥
わわっ
んっ♥
へへっ
やーん♥
もーっ

…ふふっ♥
んーっ？どうした？
どきっ
どきっ
んっ
んふふ…♥
わしゃ
わしゃ
えへへ
あは♥
わはは
あっ
あわーっ
ちょっ
ふふふ…♥
えへへ♥

んー…
ふふ♥
ん
…っ
さらっ
…♥
んっ

うぶてがみ2

チューーチューー…
パチッ
スャ
スャ
んぅ……
チチチ…
ガラララッ…

もぞ…
おはよう♡
ふふっ…今日もまた一段とすごい寝癖だな
??
にぱっ
パサ
ほら、顔洗っといで？
布団はわたしが畳んでおくからさ……
!
のそっ

……へへ…♡……おはよう…今日は一段としばれるな……
ドキ
ドキ
こんな日はまだ布団から出たくないなー……なーんて……思わないか？　なぁ？
昨日から紫様は寝ていらっしゃるし橙は昼まで来ないだろぅ…
はぁっ…
まだ布団はあったかいぞ…♡
今日くらいは だらけても罰は当たらないと思うんだよなぁ……♡
ぎゅーっ…
ドッ
ドッ
ドッ
ほら…君も……おいで♡

もぞもぞっ
むにっ♡
ぎゅうっ♥
ふふ…♡
あったかいなぁ……♡
ドキ
ドキ
ね…♡
もっと こっち…おいで♡
ぎゅーってしてあげるから♡
ぎゅむっ♥
んっ…♡
足…つめたっ……
ぴくんっ

むふふー……♡
なで
なで
ほ~ら♡
もっとしっかり
あったまらないと
風邪ひくぞぉ♡
ぎゅ♡
ぎゅ――っ♡
あ!
こーら……っ!
もう……
逃げたら駄目でしょう?
ドキ
ドキ
プイッ
ガシッ
えーいっ♡

ふふ……♡
つーかまえたー♡
はっ
はっ
あわわ
ん──？
ムク…
すりにゅっ…♡
ぎゅっ♡
なにかなー？ これは♡
ビクッ
私はただ
君とお布団でぬくぬく
だらけているだけ
なんだけどなぁ……
おやぁ…？
さわさわっ…
どうしてこんなふうに
なっちゃってるのかな～♡
ねぇ？ ねぇ……♡
どーしてかなぁ♡
フッ
フッ

でもまぁ……
朝だしねぇ……♡
しょうがないよなぁ……♡
それに紫様が
おやすみになられるまで
君としばらくご無沙汰
だったからなぁ……♡
はっ
はぁっ
ねぇ…♡
あなた……♡
じゅこじゅこっ
はーっ
はーっ
ドキ
ドキ
ビクッ

ふーっ
んふ…♡
ふーっ
ちゅぷっ
ちゅぱっ
きゅぽっ
びくっびくっ
んっ
くぽっ…
くぽっ…
んっ
んぷっ

ちゅっ♥
んぷっ
ちゅっ♥
ちゅ～っ♥
んんっ
ぞくぞくぞくっ
ビクビクッ
びゅるるっ
びくんっ
んむっ
んぷ……♥
びゅくびゅくびゅっ
ガバッ
んうっ えほっ…♥
ふふ……出しすぎ…っ♡
ズルッ…
はっ…
ヌル…
うう…
ドロリ
んっ…
んん…
コクン
はぁ
あっ…

〜〜〜ッ!!?
!!
はーっ はーっ
モゾ
モゾッ
!
ファサッ
ピラッ
ほやゃ〜ん♡
ドキ
ドキ

おーい
何を惚けている？
ドキーン
はっ…
はぁ…
のそり…
自分だけ満足して
ずるいじゃないか……
ええ…？
ハッ
ハァッ
旦那君の
独りよがりの
色事ばかりじゃ
お嫁さんが愛想を尽かして
出て行ってしまうかも
しれないぞ——？
んっ…
むにゅっ
ふっ
のしっ…
ズル…

ほら旦那君…♡
お嫁さんはすっかり
当てられてしまっているぞ…♡
君と同じく 紫様の手前
ず――っとおあずけを
喰らわされていたんだ……♡
もう………♡
我慢の限界だよ……♡
んっ…
はっ…
ヌルリ…
くちっ
ぬちぃっ
クチュ…
んぅ…
ヌチュ…
ここが……もう……
疼いて…たまらないんだ……♡
ねぇ…♡どうなってる……？
ほら…♡
しっかり確かめて…♡
ピクン
ふふ……♡
君も またすっかり
元気いっぱいじゃないかぁ……♡
ズリュ…
ズリッ…

な…？
寒い朝の
お布団の中も……
たしかにあったかくて
気持ちいいけれど……
ドキ
ドキ
ドキ
焦らしに焦らされた
お嫁さんの中は
もっとあったかくて
ぬくぬくで……♡
きっと気持ちいいぞ……♡
なぁ…♡
したいんだろう…♡
……ねぇ♡……
……いいんだぞ……♡
ドッ
ドッ
私の中を……
君ので……もっと……
あったためておくれ……♡
きゃーっ♡

……あっ……
ドキ
ドキ
きゅ…っ
んっ…
ちゅ…
あっ
んあっ…
ヌプ…ップ

ピクッ
はっ…
あっ…
んっ……♡
動いて……いいんだぞ……♡
ゾク
きゅっ
きゅんっ
ゾク
ヌプ…
ヌプッ…
ヌプ…
んっ…
んあっ
なんだ…？
ふふ……♡
もうイキそうなのか…？

はっ
タン
んっ
あっ
タン
いいぞ……
出して……♡
タン
ふふ……♡
まったく……♡
気持ちよかったか……？

だがな…？
ガバッ
私はまだ……
満足してないんだよな～……♡
もっと…
しよう…な……♡
はっ
はっ

あっ
はっ
あんっ
んっ……あはっ…♡
いいぞぉ…っ…♡
もう…ちょっと…
がんばってっ……な……♡
ゆさっ
ゆさっ
タンッ
タンッ
タンッ
タンッ
イキそう…？
ダーメっ♡
んっ
あはっ
ほーらっ…♡
ガマン……してっ…♡
私も…んんッ……♡
もうちょっとでぇ……
イケそう……はっ……♡
だからあっ…♡あっ…あッ♡
ガシッ
ぎゅっ
バスンッ
バスッ
バスッ

はぁっ…♡
いくぞ…ッ♡
いく…っ…♡
一緒にっ…♡
いこ……♡あっ♡あっ

はっ…
ビュク…
ビュル…
はっ…
はっ…
はーっ…
くたーっ…
フッ…
ふっ…
ぎゅっ…

らんさま～？
おにいさ～ん？
どこですか～？
お邪魔してますよ～！
ガバッ
あせ
あちゃー……こりゃちょっと寝すぎたなぁ……
あせ
ふふ……♡
お寝坊さんめ……♡

これじゃあ　わからんなぁ……

えぐぞがみ

カッ
カッ
カッ
あ、紫様
お帰りなさいませ
お目覚めになられて早々
どちらに参られたので？
……あの人間は？
え……？
薪割りに行って
貰ってますよ？
ガチャ
ガチャ
……ちょうど良いわ
私が寝ている間に博麗のが
うまくやってくれたみたいね
もうアレ要らないから
片付けておきなさい
――……え……

…あ
朝御飯ですか？
違うわよ
向こうから持ってきた
あの人間よ
――恍けているなら
はっきり言っておくわ
グイッ
殺しておいて。

……っ…お言葉ですが……
なにも……殺す…必要は……っ
……感謝はしているわ
おかげで結界の隙間は埋まったもの
——でもね埋まっちゃったのよ
できるだけ早く済ませちゃいなさい
まぁたかだか人間一匹憂える必要も無いでしょう?
それにあなたも
いつかこうなることは分かっていたでしょう?
……——

……――はい
そう、ならよろしくね
お礼に墓くらいは立ててあげなさいな

――居るか？
……入るぞ
ス
!
……
聞いてた…か……

……せめて
私から言いたかった……

私は……
私はこんな日が来るのを
ずっと知ってた……
少し考えれば
こうなることは分かってた……
ずっと分かってて
……君と……――
でも……
言うのが怖かった……
いつかこの日が訪れるならば
伝えなければならない日も
必ず来るというのに
ただ……
ただ君に嫌われる…のが
――……怖かった
一人で舞い上がって……
君を騙して……
君を誑かしていたのを……
こんな私を君に
知られて……
君に嫌われるのが
怖かったんだ……!
仮初めの幸せだって
分かってたんだ……
分かってたのに……
ぎゅっ…
それに満足して……
その仮初めの幸せを
ただただ貪っていたんだ

――身勝手だよな……
わたしは……

――僕も
幸せでしたよ。

どのみち
僕は遅かれ早かれ、
貴女より先に
迎えが来るのだから。
それに
僕は死にませんよ?

人が本当に死ぬときは
忘れ去られた時なんですって
僕のことを、
僕の顔を、
僕の声を、
——僕の名前だけでも
貴女が覚えている限り
僕は死なないんです。
——ね？

ひぐ…っ うぉぉ
うぁ… あぁ…
ぐえっ
はぉっ……っ
あ゛ぁ あ……う゛…
――っ……
ぐっ…
忘れるわけ ないじゃないか

――そうか
私は君を
二度も
殺してしまったんだな

……紫様
やっぱり人間なんて飼うもんじゃないですね

謝辞

こんにちは、お久しぶりです。もしくは初めまして、ざわ改めオザワヨシです。
この度はこの本を手にとっていただきありがとうございました。
ご拝読いただいたすべての方々ひとりひとりに深く感謝いたします。

重ね重ねになりますがえぐぞがみというのはexogamyというJ.F.マクレナンの提唱した言葉から来ておりまして、
異属間結婚、異系交配などといった意味を持ちます。
要するに数々の強大な伝説を持つ大妖怪である八雲藍とそんじょそこらのちっぽけな人間との婚姻……
それはどんなひと時か、どのような関係か、どんな結果をもたらすのか、
八雲藍とのいちゃラブえっちはもちろんのこと、えぐぞがみシリーズはそのようなテーマを併せて描いてまいりました。

それは一作目のあとがきでも述べましたが、どんなに愛し、愛された時があったとしても
人間に比べればとても長い、タイムスケールの違いすぎる大妖怪の人生においては、
そんなこともあったかなぁ程度の一瞬の出来事なのではないでしょうか。
人間が道路を歩くアリをいちいち覚えていないように。
でも、それでも、そんな一瞬の出来事としてでも、かすかに記憶に残っていて、ふとした拍子に思い出したり、
里の人間に話しかける程度の、ささいな出来事の意思決定をほんのちょっとでも左右する要因になったりして、
彼女の人生に少しでも影響を及ぼすことができたなら、これ以上の幸せはないのではないでしょうか。

そんな完全に私のエゴの塊であるようなこの作品ではありますが、誰か一人でもそんなシチュエーションに
賛同してくださったり、この本を読んで感銘をうけてくださった人がいるのであれば、
これ以上にうれしいことはありません。

2017年に一冊目を発行いたしましたえぐぞがみシリーズではありますが
雛形といたしましては2013年発行の大藍祭にて描かせていただいておりました。
今回、総集編にあたってリメイクいたしました一部分がその内容となっております。
思い返せば初めて同人誌というものを作ったのも藍様であり、もっとさかのぼって初めてコピックできっちり
イラストを書き上げたのも藍様であり、ほぼ人生の半分を藍様とともに過ごしてきたような気さえします。
今回の総集編を発行するにつきまして、ひとまず結末を書き記させていただいた次第ではありますが、
まだまだ思い出せていない過去の思い出、もとい描きたいシチュエーションがいくつかございますので、
もしかすれば、また短編として発行することがあるかもしれません。
そのときはどうぞまた、よろしくお願いいたします。

最後に、この本を発行するに併せまして、次ページから始まります素敵なゲスト原稿を執筆いただいた、
いくたたかのん様、ゆからんのすけ様、みどりねこ様
心をこめて感謝をささげます。

ん？
どうした…？
彼女の名前を
おれは知らないが
他に誰も居ないから
呼ぶのには困らなかった
最初は
獣のようで
遅いから
心配したぞ
共に暮らすうち
友達のように
話し
すまんすまん
思ったより
手間どってさ
きょうだいのように
眠り
眠る前だけ
仔犬のようになる
本当はひどく
寂しがりのひと
いくたたかのん.01 Dec
Say "Good Morning" to me.

すこし前より
つめたくなった体で
帰る場所と
ひとを失い
彼女の身体の
いちばん奥に
―気でも おかしく
なっているのか？
火をくべるように
結ぶ
ここをこうしたのは
この私だぞ
彼女は多分
ひとではなくて
目の前のいのちに
縋るしかなかったおれは

得体の知れない彼女を
ほっておけず
なけなしの食べ物も
喉を通らなくなって
しばらく経ち
こら
伝染るから…
だからといって
何が
出来るわけでもなく
がばっ!
んぐ…っ
ただ漫然と
傍にいた
知らんのか
耳サンド最高だぞ
ぐぐ
ぐぐ
どちらにしろ
どちらとも
永くはなく
多分彼女にももう
喪うものはなく
ただ

喪った誰かのぶん
持て余した愛情と時間を
はは…
自分勝手に
相手に注ぎ込んで
――さすがに
バテたか?
はりきりすぎだぞ
死にかけのくせに
やがて来る
独りの夜から
お前こそ…っ
息も絶え絶えじゃ
ないか…
ふたりとも目を
逸らしていた

鼓動と圧迫感で煩い耳元のせいで
遠くなった思考で
彼女のことを思った
これで彼女がもう少し永らえてくれるなら
自分がいた意味も少しはあるだろうか
――私が死ねば復元が始まって
〝八雲藍〟が再構築されるのは向こう側
――もう時間がない

——彼女は きちんと見据えて
——もう動けないお前を 置いていくのも
私がお前を 失くしてしまうのも
おれよりも 恐れていた
もう 耐えられない
身体だけでも 連れていく…
拠りどころを失い ひとりで 取り残される
ふたたびの 孤独を
君は 仔イヌみたいだなあ
——いいよ
好きにしてよ

今頃
むこうで
どうして
いるんだろうか
多分
ひとではなく
ひとよりも
体温が高くて
本当はひどく
寂しがりのひと

20世紀初頭　上海租界
ゆかりらんのすけ
さあああ
ごめんなさい、
つい見入ってしまって
今夜でこの夜景と
お別れだから
ええ、
予定通り明日
日本へ発つわ
用事は済ませたし、
あちらで御主人様が
お待ちですもの
あら
せっかちな人
ふふっ
脱ぐまで待って♥
しゅるっ

さあどうぞ存分に今夜は愉しみましょう
ンッ…もうそういう手付きは得意なんだから
…ダメだってば一緒にはなれないのよ
私にはお仕えするお方がいるんだから…
…ごめん、私も残念
ん…いいわ、来て

はぁっ
はぁっ
あぁっ
ぎしっ ぎしっ
ぎしっ ぎしっ
ちょっ…
激し過ぎッ!!
ぱっ
ぱっ
ぱっ
覚えたての
子供みたいよッ!
ぬぷっ
ぬぷっ
ぬぷっ
ぬぷっ
染めてッ
真っ白に染めてッ!!
お腹の中も
頭の中もッッ
ビクッ
はぁっ
はぁっ
ズッ
ズッ
ズッ
ぽっ
ぽっ

ゾプッ
びゅーーっ
はーっ
大丈夫、あなたの精気を頂くだけ
死にはしないわ
ふふっ 止まらないのね
びゅーーっ
びゅーーっ
ごめんね 悪い狐で
でも本当に 好きだったのよ…

おしまい

おーい
手首の愛情 - みどり
どうしました？
藍さん
懐かしいものが
出てきたぞー
ガサ
ほらこれ

手錠っ
!?
懐かしいなぁ
お前がここに来て初めての冬だったか……
冬は紫様の監視がどうしても行き届かなくなるから……
お前が逃げてしまったらどうしよう、ってすごい不安だったんだよなぁ
もう当時から添い遂げる覚悟はありましたけどね
でもなぁ…あの時はもう不安で不安で仕方なくてな……

——人間(お前)の全てを奪った妖怪(私)を憎んだりしてるんじゃないかって
朝から晩まで繋がったり思えば色々なことをしたけれど——
最終的にはずっと手錠(これ)で繋がってたよなぁ
スッ
こうやって…
ガチャ…

じゃ
ら……
ずっと片時も離れなかったっけ
…実はですね
今でもこうしているとなんだか安心するんです
ふふ……私もだよ……
イチャ
イチャ
ご主人たちのコイバナが重過ぎてドン引きしてる式の図
終

ありがとうございました!

えぐぞがみ総集編

exogamy エグゾガミー 【名】
1.異属結婚
2.異系交配

発行　2019年 12月 31日 コミックマーケット97 ［第1刷発行］

著者　オザワヨシ

サークル　YAMADA AIR BASE

印刷・製本：ねこのしっぽ 様

連絡先：coop_sb_5@hotmail.co.jp
twitter：@_ZAW_

※この作品はフィクションです。実在の団体・人物・事件・地名等には一切関係はありません。
※本書の一部、または全部を無断でweb上にアップロードすることはおやめください。

WARNING:
・The producer of this book has not permitted following,
・Reproduction of this book.
・Making of all means of copies of this book.
・Resale of this book.
・This book is done in the scanning and uproad to the Wired network.

The producer of this book prohibits sharing the book by Wired network and the resale.